

ちひろ・絵本づくりの現場

さざなみのような画風の流行に左右されず、何年も読みつづけられる絵本を、せつにかきたいと思う。もっとも个性的であることが、もっとも本当のものであるといわれるように、わたしは、すべて自分で考えたような絵本をつくりたいと思う。

いわさきちひろ 1964年

いわさきちひろは、生涯にわたって絵本表現の可能性を追求し続けた画家でした。たくさんの人に絵を見てもらいたいと印刷美術での仕事を選んだちひろにとって、理解ある出版社や編集者との出会いは、絵本を舞台にしての新たな画境を開くきっかけともなりました。本展では、『りゅうのめのなみだ』など1960年代の物語絵本から、平和の願いを込めて描いた最後の作品『戦火のなかの子どもたち』までの、ちひろの絵本表現の軌跡を追います。絵本の原画、習作やスケッチ、ダミーなどの展示とともに、制作の現場を知る当時の編集者の証言もあわせて紹介し、絵本づくりにかけたちひろの思いを浮き彫りにします。

1 窓ガラスに絵をかく少女 『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年

1960年代半ば～ 物語絵本

1965年に浜田廣介の『りゅうのめのなみだ』(偕成社)を描いたのを機に、ちひろはアンデルセン童話や日本の昔話など数多くの物語絵本を描いています。

出品作品
『りゅうのめのなみだ』1965年
『あかいくつ』1968年
『あかいふうせん』1968年
『青い鳥』1969年



2 りゅうに乗る男の子 『りゅうのめのなみだ』(偕成社)より 1965年

1966年～ 若い人の絵本

1966年の『絵のない絵本』以後、ちひろは7冊の若い世代を対象にした絵本を童心社で手がけています。自ら選んだ文学作品の世界を、薄墨と鉛筆のモノクロームで叙情豊かに描き出しています。

出品作品
『絵のない絵本』1966年
『万葉のうた』1970年



3 煙突掃除の少年 『絵のない絵本』(童心社)より 1966年

1973年 平和への願いを こめた絵本

ちひろは生涯に3冊の戦争をテーマにした絵本を描いています。ベトナム戦争が激化していた1973年、病をおして描いた『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)はちひろが完成させた最後の絵本となりました。

出品作品
『戦火のなかの子どもたち』1973年



5 少年 『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年

1968年～ 感じる絵本

1968年、ちひろは、雨の日にひとりでお留守番をする少女の心の揺れを主題に『あめのひのおるすばん』を描きました。以後至光社から6冊の絵本を発表しています。物語の説明ではなく、心情を感じさせることに集中した絵本づくりは、ちひろ独自の絵本の世界を切り拓きました。

出品作品 『あめのひのおるすばん』1968年



4 雨にけむる白い家 『あめのひのおるすばん』(至光社)より 1968年



〈企画展〉

ずっと長さんとともに

—長新太が描いた子どもの本—

主催：ちひろ美術館

後援：絵本学会、こどもの本WAVE、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(社)日本図書館協会、杉並区教育委員会、中野区、西東京市教育委員会、練馬区、武蔵野市教育委員会

協力：あかね書房、絵本館、偕成社、金の星社、クレヨンハウス、講談社、国土社、小峰書店、鈴木出版、童心社、徳間書店、のら書店、福音館書店、文溪堂、文研出版、理論社

惜しくも2005年に世を去った絵本画家・長新太は、第二次世界大戦後の日本の児童文学と絵本の隆盛期に活躍し、さまざまな子どもの本にその足跡を遺しています。本展では、11人の作家と長新太自身が物語やことばを手がけた作品を取り上げ、長新太が描いた子どもの本の絵を展示します。40年以上にわたり長新太が子どもたちに届けてきた作品のなかから、選りすぐりの原画約100点を展示します。子どもの本を舞台に繰り広げられた個性豊かな11人の作家とのコラボレーション、そして長新太独自のユーモアに満ちたナンセンスの世界をお楽しみください。

6 長新太 『こんなことってあるかしら』より(長新太・文 クレヨンハウス) 1993年

文と絵をひとりでかく場合、文だけ読んだり、絵だけみたりしたぶんにはどうということもないけれど、いっしょにしてみると、なんともいえない魅力がある—というのがいいのではないだろうか、とわたしは思っています。これは、まんじゅうの皮とあんこの関係によく似ています。(中略) 文と絵の相乗作用が肝要なのです。文と絵が、自己主張しすぎてはいけなわけです。皮の厚さが十五センチ、あんこがバレーボールくらいの大きさのまんじゅうになっては、いくらなんでも困りますからね。

長新太 1974年



7 長新太 『ろくべえまってるよ』(灰谷健次郎・文 文研出版)より 1975年

8 長新太 『にんげんになったニクマンジュウ』(長新太・文 偕成出版/絵本館)より 1987年



9 長新太 『げらっくすノート』(筒井敬介・文 偕成社)より 1973年

10 長新太 『つみつみニャー』(長新太・文 あかね書房)より 1974年

11人の作家と長新太による子どもの本を紹介

今江祥智『山のむこうは青い海だった』(理論社) 1959年／庄野英二『星の牧場』(理論社) 1963年／筒井敬介『げらっくすノート』(偕成社) 1973年／灰谷健次郎『マコチン』(あかね書房) 1975年／谷川俊太郎『えをかく』(講談社) 1979年／内田麟太郎『さかさまライオン』(童心社) 1985年／神沢利子『あらかどだ』(国土社) 1987年／長新太『にんげんになったニクマンジュウ』(偕成出版/絵本館) 1987年／山下明生『うみぼうやとかぜばんば』(のら書店) 2000年／八木田宣子『あわてんぼライオン』(徳間書店) 2002年／中川ひろたか『ないた』(金の星社) 2004年／工藤直子『リュックのりゅう坊』(文溪堂) 2005年ほか。



11 長新太 『おやすみぼくのむぎわらぼうし』(今江祥智・文 鈴木出版)より 1973年

単行本化されていない貴重な作品も紹介

今江祥智の物語に長新太が絵を描いた「おやすみぼくのむぎわらぼうし」は、1973年に幼年向けの雑誌に掲載された後、単行本に収録されることはありませんでした。現在では知る人が少ないこの物語を紹介し、原画を初公開します。

●大塚敦子講演会
「ともに生きるということ」

生と死、人と動物の絆をみつめるフォトジャーナリストが、東日本大震災の復興や、自作に込めた想いを語ります。

8/10 (土) 15:00 ~ 16:30

* 要申し込み 7/10 (水) 受付開始

講師：大塚敦子 (フォトジャーナリスト)

定員：60名 参加費：1000円

会場：図書室

●ちひろの水彩技法体験ワークショップ
「にじみでうちわをつくろう」

ちひろの水彩技法をわかりやすく解説し、実際に透明水彩で、ちひろが用いた技法を体験する人気ワークショップ。今回はオリジナルのうちわをつくりまします。

8/17 (土)・8/18 (日)

①13:30 ~ 14:30 / ②15:00 ~ 16:00

* 要申し込み 7/17 (水) 受付開始

講師：ちひろ美術館職員 対象：5歳~大人

定員：各回20名 参加費：500円



ずっと長さんとともに
—長新太が描いた子どもの本—
関連イベント

●対談
谷川俊太郎 × 松本猛
「長新太の子ども本」

長新太が手がけた子どもの本の魅力を交流のあったふたりが語り合います。

9/14 (土) 17:30 ~ 19:00

* 要申し込み 8/14 (水) 受付開始

講師：谷川俊太郎 (詩人)、

松本猛 (ちひろ美術館顧問、絵本学会会長)

定員：80名

参加費：1000円

●子どもギャラリートーク

当館学芸員が展示室で、小学生を対象にしたギャラリートークをします。

8/24 (土) 14:00 ~ 14:40

* 要申し込み 7/24 (水) 受付開始

対象：小学生 定員：15名 参加費：無料

●ちひろ美術館開館記念日
たてももの探検ツアー

ちひろ美術館の建物は建築家・内藤廣の設計によるものです。建築の工夫を紹介しながら、ふだん見られないところまでご案内します。

9/10 (火) 14:00 ~ 14:40

* 要申し込み 8/10 (土) 受付開始

定員：20名 参加費：無料

●わらべうたあそび

声を出して歌ったり、体を動かしたりしながら、親子で楽しく参加できます。

9/7 (土) 11:00 ~ 11:40

* 要申し込み 8/7 (水) 受付開始

講師：服部雅子

(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

対象：0~2歳までの乳幼児と保護者

定員：15組30名

参加費：無料

●おもちゃのひろば

おもちゃコンサルタントが、優良なおもちゃの楽しみ方、遊び方をたっぷりご紹介いたします。
* おもちゃコンサルタント：NPO法人日本グッド・トイ委員会が育成するおもちゃの専門家。

10/20 (日) 10:30 ~ 12:00

* 要申し込み 9/20 (金) 受付開始

対象：3歳~未就学児とその保護者。

定員：10組20名

参加費：無料

協力：おもちゃの広場 石神井支部

●ギャラリートーク

当館学芸員が、作品の解説や展示のみどころをお話します。

毎月第1・3土曜日

14:00 ~ * 参加自由

●松本猛
ギャラリートーク

いわさきちひろの息子である松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示のみどころなどをお話します。

10/6 (日) 14:00 ~ * 参加自由

講師：松本猛 (ちひろ美術館常任顧問、絵本学会会長)



●えほんのじかん

展示や季節にあわせて絵本の読み聞かせなどを行います。

協力：NCBN

(ねりま子どもと本ネットワーク)

毎月第2・4土曜日

11:00 ~ * 参加自由

○次回展示予告 2013年10月30日 (水) ~ 2014年1月31日 (金)

ちひろと初山滋
—永遠のコドモ—

同時展示 初山滋の木版画



いわさきちひろ 赤い毛糸帽の女の子
『ゆぎのひのたんじょうび』(至光社)より
1972年



初山滋 金平糖 1950 ~ 1959年

- 展示会期... 2013年8月7日 (水) ~ 10月27日 (日)
- 開館時間... 10:00 ~ 17:00、8/10 ~ 20は18:00まで (入館は閉館の30分前まで)
- 休館日... 月曜日 (祝休日は開館、翌平日休館。8/10 ~ 20は無休。9/16・9/23・10/14は開館、9/17・9/24・10/15は休館。)
- 入館料... 大人800円 / 高校生以下無料
団体 (有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引 / 障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料 / 視覚障害のある方は無料
- 交通... ○ 西武新宿線上井草駅下車徒歩7分
○ JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分
○ 西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分
○ 駐車場あり (乗用車3台・身障者用1台)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団
ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

お問い合わせは、広報担当：原島まで